

雨水中のキウイフルーツかいよう病菌の推移

キウイフルーツかいよう病菌(細菌)は、感染(発病)樹の樹液流出部や発病葉から風雨で飛散して健全樹の傷口や自然開口部(気孔、皮目など)から侵入、感染する。

このため、発病園地での雨水中のかいよう病菌の推移を調査し、雨水による感染リスクを把握した。



樹液流出部

発病葉



ボトルで雨水を降雨ごとに回収して調査

2016~2017年

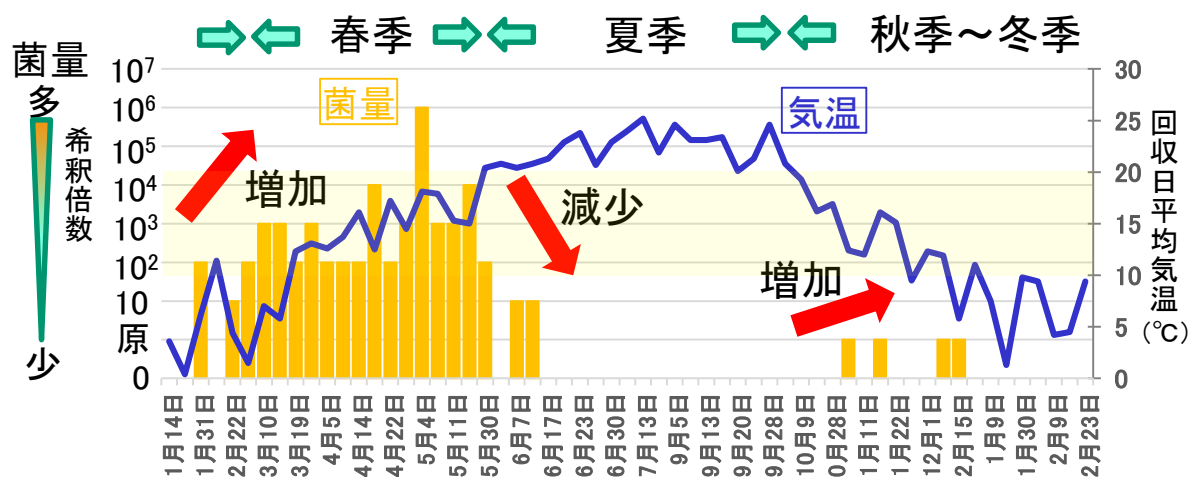


図 雨水中のかいよう病菌の推移(日付は回収日)

雨水中のかいよう病菌は、菌の生育適温である10~20°Cになる春季が最も多くなる。高温になる夏季に一度減少するが、温度が低下する秋季から冬季にかけて再び増加する傾向にある。

雨水中の菌量は季節的に変動
 春季 > 秋季~冬季 > 夏季
 (3~5月) (10~2月) (6~9月)

春季の防除だけでなく、収穫後、落葉後、剪定後、発芽前といった休眠期の薬剤防除も重要